

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 17日

事業所名 こどもプラス小祿教室

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	12	0	0		
	2	職員の配置数は適切である	11	1	0		配置数は適切であるが、送迎箇所が多いため足りなく感じる。職員の募集をかけている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	2	7		死角になる場所や高い場所には立ち入らないように声掛けしている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	3	2	月給制職員は30分ほどの朝礼・終礼を行っている。	パートが出勤したタイミングで申し送りなどを行っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9	3	0		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11	1	0	ホームページに掲載している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	10	2	0		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	11	1	0	本部より毎月3つの研修を実施。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	10	2	0	入所の際に児童発達支援管理責任者が保護者、児童から聞き取りを行い、それを基に個別支援計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	5	0	本部より配布されているアセスメントツールを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	10	2	0	午前中などで運動遊びの立案や活動の立案をスタッフで行っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	11	1	0	室内で十分発散が出来ない場合は近くの公園等で発散している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	5	1	学校が休みの日は外出などのイベントを行っている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	12	0	0	言語聴覚士による言語訓練や、運動保育士による運動療育を行っている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9	3	0		朝礼を行っているが、お昼から出勤するパートさんへ情報を伝えるようにする。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	12	0	0		
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	12	0	0		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	12	0	0	毎月、個別支援会議を行い、対象児の評価・療育の変更などを話している。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	10	2	0		

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	12	0	0		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連 絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の 連絡)を適切に行っている	12	0	0		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場 合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている	4	2	6	対象児なし。	対象児が入所した場合には担当者会議等で 主治医と打ち合わせを行い連絡体制を整え る。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	3	4	5		高学年の児童が主なため、保育園等との関 りは少ないが、保護者が希望した場合は実 施したい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行 する場合、それまでの支援内容等の情報を 提供する等している	7	5	0	卒業児が移行する場所との担当者 会議を実施している。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援セ ンター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	2	5	5		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある	1	4	7	近くの公園などで地域の児童とふれ あいを行っている。	コロナ禍のため実施が少なかったため、増 やしていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している	5	7	0	地域のかざぐるま連絡会協議会に参 加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	12	0	0		
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の支 援を行っている	5	6	1	管理者がペアトレの研修を受けてい る。月に1回FC研修を実施している。	ペアトレの勉強会などを行い、職員ができる ようにスキルアップを目指していく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	11	1	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談 に適切に応じ、必要な助言と支援を行ってい る	11	1	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している	10	2	0	毎年1回、保護者会を実施していま す。	保護者会の実施日を増やすなど行い、参加 できる人を増やしていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適 切に対応している	12	0	0		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	11	1	0		
	35	個人情報に十分注意している	10	2	0	鍵の付いたキャビネットに個人情報 は保管しています。	児童が触れない場所に記録等を置くようにし ていく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎 通や情報伝達のための配慮をしている	12	0	0	情報は基本的に送迎の際対面で伝 え、会えない場合は電話や公式ライ ンで配信している。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地 域に開かれた事業運営を図っている	1	1	10		コロナ禍のため実施できていないが、今後 実施していきたい。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	10	2	0		スタッフへマニュアルの周知をしていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12	0	0		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10	2	0	月給制職員は毎年本部より研修がある。	パートさんへの講義内容の伝達講習を行っている。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	10	1	1	対象児なし。	対象児が入所した場合は、個別支援計画書に書くように準備をしていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	8	3	1	対象児無し。	保護者より申し送りを聞き、必要な場合はドクターからの指示をうけている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12	0	0		